特集 海外に進出する日本企業と日本のカジノ合法化

カジノ・オートリア・インターナショナル(CAI)は
日本のカジノ合法化を応援します。

第5回
日本カジノ創設サミット in 徳島
(2008年2月16日開催)

ドイツのバーデン・バーデンのカジノは、かの有名なロシアの文豪ドストエフスキーが訪れた後、続けざまに3作品を書き上げたというエピソードをもとに、退役軍人ナチス幕僚たちにより憧れの27カ国で書き上げたのが不朽の名作「戦場の鷲」である。バーデン・バーデンはその国境あるヨーロッパ文化の中心地の両、貴族の保養地として栄えた。それにより地域住民に健康と生活の潤い、そして知的好奇心と開発をもたらしているという。

「世界もバーデン・バーデンのようなカジノが、今回提案するカジノミックスを実現した日本カジノ構想の基本的なビジョンである。

08年2月16日、会場となったホテルクレメント徳島の客室数は約300室が最多り、同市全体の中規模施設である。「アイランドリゾート」の一環として開発されたが、結局うまく関連づけを考えられず、バーデン・バーデンのクアハウスは単なる温泉施設ではなく、複雑な温泉療養施設であり、カジノ施設もそれに基づいた施設である。

「ここは様々な温泉のシステムを採用した、まさに広大なクアハウスは郊外住民も一体となった重要システム施設も含まれている。

「ここは様々な温泉のシステムを採用した、まさに広大なクアハウスは郊外住民も一体となった重要システム施設も含まれている。

カジノゾーンとは、健康保養ゾーン、伝統文化ゾーン、歴史文化ゾーン、博物館などを設けることで、街の活性化と活用化、地域住民の心身健康度の向上などを図ることでウェルネスと名付けられた考えでおりまた石川県知事でも日本カジノ創設サミットが開かれたりと、はや5年が経ちましたが、今年に入りやっとカジノ法案も動きつつあるようです。

「中断前、世界の様々なところでカジノを視察されに参られて、帰ってきて、プレジャーと依頼の依頼をありがたく、改革へのようなことをありがたく、改革へのようなことを行い、外国資本を導入しマカオのカジノを成功させました。日本も本当の改革をしなければ立ち行かない状況にあります。特定地域の活性化だと思います。」

会はインターポジウム、感銘金のご船制、次回以降にその模様をお伝えします。

01. 石坂泰彦日本カジノ学会理事長。02. 日本カジノ議連保留学会の今岡議員代表。03. 会場となったホテルクレメント徳島。04. 似付で開料を指名。05. 同式典はバラの会場を飾った。06. ブラックジャック。07. 約300名が参集。08. ルーレット。

特集 海外に進出する日本企業と日本のカジノ合法化

カジノ・オートリア・インターナショナル(CAI)は
日本のカジノ合法化を応援します。

カジノ創設の必要性を訴求する徳島時代が集い、意欲満々を活法。

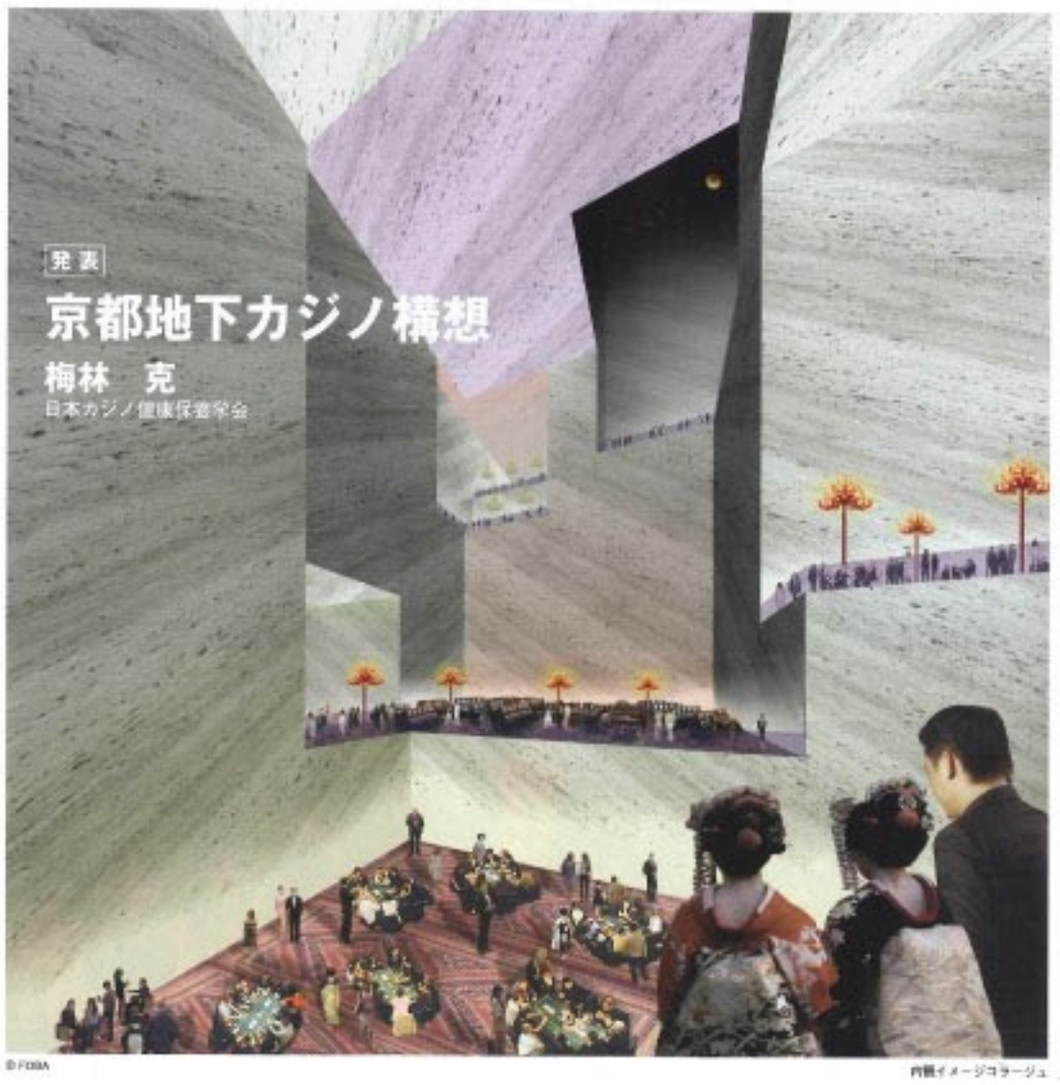
ネジレのエネルギーを活用

日本の長期上、問題を集めて、問題解決ができないかと言う方もいるかもしれません。

しかし地方自治体にとっては、そこで地方自治体にとっては、世界からお客さんを呼び込めるような魅力的なものになるはずがないので、地方自治体が期待する経済効果を得ることはできません。

国が一定の役割を果たすため、カジノ役割から「全国民の公平」を担保しなければならないということです。

地方自治体が「地元の声」を聞いて、地元の声を聞いて、地元の声を聞いて、地元の声



発表 京都地下カジノ構想

梅林　克
日本カジノ健康保養学会

© FOBA　内観イメージコラージュ

「中心市街地・保養地におけるカジノの効用」と題して、日本カジノ健康保養学会の中西昭憲代表と梅林克氏がプレゼンテーションを行い、梅林氏の京都地下カジノ構想のビジュアルがひときわ注目を集めた。以下、梅林氏の講演、資料を基にその概要をお伝えする。

京都は日本の代表的な古都であり、来訪者数、リピート率ともに毎年トップクラスを維持している観光都市でもありますが、過去の遺産に頼りきりになり、新たな観光資源開発はなおざりな状態が続き、中心市街地の空洞化が進んでいます。その上、最近導入された市独自の景観規制もあって開発の停滞、経済の停滞が加速しているのが現状です。

京都の魅力は職住近接、労働と余暇の混在、学問と遊戯が不可分に併存している状態にあり、この魅力を形づくるための片輪である経済活動が不全であれば、京都は観光都市としても不全化されることになります。そういった問題意識に立って考えると、京都には「カジノの街と生きる力」すなわち「地域開発力」が必要なのだと考えます。

具体的な場所は塩末地等の中から3つの区域（島原地区・五條楽園地区・中書島地区）を選びました。京都の条里制に基づいた格子状の洛中街区には不思議な構造が内在し、その一つに古い都市とは異なった場末になっています（場末は都市周縁部に位置するのが一般的）。近代的な都市開発から取り残され衰退の一途を辿っているこの場末にカジノを誘致し、かつての花街を新しい形で復活させたいと考えています。島原地区には花魁が闊歩した元禄時代の華やぎを、五條楽園地区には大正ロマン漂うエキセントリックなカフェ文化を、中書島地域は坂本龍馬をはじめとする明治維新の志士たちが往来した頃の熱気を、というように各地域がもっとも華やかだった時代をテーマにした街づくりを考えています。

カジノは地下につくります。地下カジノは、聖と俗、生と死の対比という京都の隠れた都市構造の新しい形での表現であり、観光資源化する上部構造を支えるインフラとなりえます。また、「地下であること」は高さやヴォリュームのあるものを極端に嫌う京都の景観論争への回答にもなり、洛中の周縁部の東山や嵐山に連なる有名な寺社や古跡を巡るだけでは知りえない、今も生きる京都の記録を体感できる新しい「場末」再構築を目指す開発構想の提案でもあります。

© FOBA　新画イメージコラージュ

梅林　克氏

パネルディスカッションと華やかなカジノパーティ

各地域（熱海、秋田、珠洲、常滑、堺、沖縄、仙台、銀路）の代表による、カジノ誘致に関する活動報告の後、推進団体共同により、カジノ創設のための基本法制定を求める要望書を岩屋毅議員に提出（写真55頁）。

その後に行われたパネルディスカッションでは、谷岡一郎大阪商業大学学長が司会となり、岩屋毅議員、萩生田光一議員、美原融氏（三井物産戦略研究所室長）、阿岸祐幸氏（北海道大学名誉教授）、木曽崇氏（エンターテイメントビジネス総合研究所主任研究員）、中西昭憲氏が列席。「法制化の現状」、「保養地カジノの魅力」、「日本のカジノの在り方」、「依存症などマイナスコスト対策」、「経済効果」などが語られた。

「マカオやシンガポールなどと比べて、日本のカジノはどうなるのか？」という谷岡氏の質問に対し、美原氏が断言する。

「マカオは法制度的には参考にすべきところが全くなく一切無視です。マカオには昔からカジノがあって後追いで（法制度を）やってきたからです。一方、シンガポールはゼロからですから、面白い。立法過程、法制度や施設のあり方、依存症対策、消費者保護対策などは近代購博法制のあるべき方向性を示しています」

また、官と民の癒着の可能性について萩生田議員が応える。

「悩ましいお話だと思います。たとえば、ここはショッピングモールと決めた場合、ここにどういう会社が来るかというのを全く想定していないかというと、そうではありません。エントリー前の癒着はいけませんが、官と民がお互い知恵を出し合うことは、私はいいことだと思います。しかしその点について岩屋先生は厳格にすべきだとおしゃっていますので党の中でも意見が分かれています」

続いて岩屋議員がいう。

「カジノの制度を本当に生み出していくためには、国民の皆様からみたときに、カジノによって新しい癒着だとか利権だとか、不透明な構造が絶対に生まれないんだという信頼感が非常に大事ですから、私としてはそういう手続きを厳格にすべきだと思うのです。しかしそうは言えども実現可能性ということも当然配慮していかなければいけないと思いますので、これは一番悩ましい問題で、岡が開が一番嫌がるところだと思います。そこを何とか突破していきたいと思います」

最後に、いったい、いつカジノ法案は通り、いつ第一号のカジノが誕生するのか？　毎年恒例とも思われる質問に岩屋議員は続けていう。

「この種の会合をやると必ずそれを聞かれるんですね。そのために皆さんは集まっておられるのですから、お気持ちはよく分かります。遅れ遅れになって申し訳なく思っております。ただ申し上げたとおり、他党との勉強会もこれから始めますし、我が党としては法案の提案に近いものを、今国会の会期中につくりたいと思っております。政界が今年から来年にかけて何が起こるのか、我々も見通しがつかないのですけど、今会期中に提案らしきものをつくり、休会中にそれを揉んで、次の臨時国会に出すという目標でやらなければならないと思っております」

第2部はCAIと日本カジノスクールの協力のもとクラシック演奏のカジノパーティが行われ盛会となった。

パネルディスカッションの様子。01. 右から谷岡一郎氏（大阪商業大学学長）、岩屋毅議員（自民党）、萩生田光一議員（自民党）、美原融氏（三井物産戦略研究所室長）、木曽崇氏（早稲田大学総合研究機構カジノ産業研究会研究員）、阿岸祐幸氏（北海道大学名誉教授）、中西昭憲氏（日本カジノ健康保養学会代表）。02. 第2部のカジノパーティを説明する大岩根成弦氏（日本カジノスクール校長）。03. ソプラノ、ピアノ、ヴァイオリンの生演奏とともにカジノパーティが行われた。